水道水が飲める世界へ

沖縄県　豊見城中学校　三年　安座間　美心

今、世界ではたくさんの水問題があります。その中でも深刻なのが飲み水の問題です。私達は普段、水道から水を飲むことが可能ですが世界の中には水道水をそのまま飲めない国だけでなく水道すらない国まで存在するのです。水道がない国では池や川などの地表水の利用で飲水を確保しています。

では、どうやったら世界中どこでも水道水が飲める環境になるのでしょうか。

私が三年間住んでいた香港では日本と異なり水道水をそのまま飲むことはありませんでした。そのためほとんどがウォーターサーバーから飲んでいて水道の水を口にすることはありません。また、国際的な安全基準は満たしているものの水の性質やインフラの関係上そのまま飲むことは難しいです。

世界の飲み水の割合は、日本ユニセフ協会の資料によると安全に管理された水を利用できるのは七十四パーセントで、他は安全に管理されていない水を飲んでいるとありました。安全な飲み水を利用できないとさまざまな問題が起こってしまいます。例えば体調を崩したり食中毒や感染症が現れることもあります。

国土交通省水資源部の資料では水道水をそのまま飲める国は日本を含む九か国、あるいはそのまま飲めるが注意が必要な国は三十三か国しかなく、世界の中でわずかしかありません。だからこそ水道水をそのまま飲める数少ない国の中の私達はもっと水を大切に使うことが必要だと思います。

私が住んでいる沖縄では二〇二五年十一月に大規模な断水がありました。水道管の老朽化だけでなく沖縄では台風が多いことから気象面でも水問題が心配です。

このように問題の原因はインフラの未整備や人口の増加、気象変動などから起こっています。水道が整備されないことから水を得ることができない人がいるなかで、人口増加により使う水は増え続けています。インフラの整備が行われないと水道管が老朽化して断水につながったり多くの問題が発生してしまう原因となってしまいます。

そして世界では安全な水の飲める国は少なく水道すらない国もあることから様々な問題が起こっています。

こうした水問題を解決するためには私達ひとりひとりが意識して生活しなければなりません。

まず私達にできることは「節水」です。お風呂や手を洗うとき流しっぱなしにしない、必要最低限の量を使うことをひとりひとりが行えば多くの水を節水することができると思います。また、使った水の再利用やため洗い、つけ置きなどの工夫が必要です。

次にできることは水質汚染の防止です。川や海にゴミを捨てないことや分別、ゴミは持ち帰るなど当たり前のことを徹底して行えば水質汚染を防ぐことにつながります。ゴミだけではなく食べたものを残さないことでも防止することができます。

そしてできることとして考えられることはＳＤＧｓへの理解です。ＳＤＧｓの六番「安全な水とトイレを世界中に」の目標をひとりひとりが理解し行動すれば安全に管理された水を世界中の人が利用できると考えました。

このように安全で管理された水を利用できることは当たり前ではなく限られた国だけしか使うことができません。今ある環境や当たり前のことに感謝し生活することが世界の水問題の解決につながります。さまざまな問題を解決することで今後の未来へとつながり、より暮らしやすい世界にできると思います。

わたしたちひとりひとりの行動によって世界は変わるのです。